

## 第37期営業のご報告

平成15年4月1日～平成16年3月31日

証券コード 6869

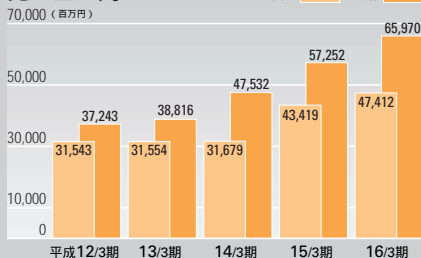


シスメックス株式会社

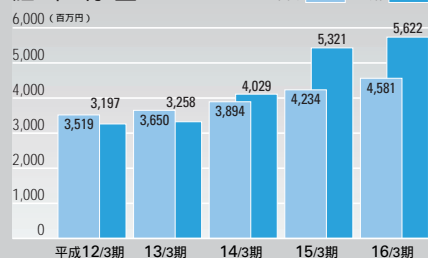
# Financial Data

## 業績の推移

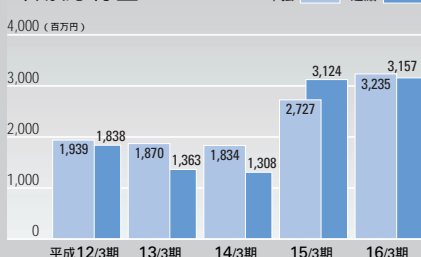
### 売上高



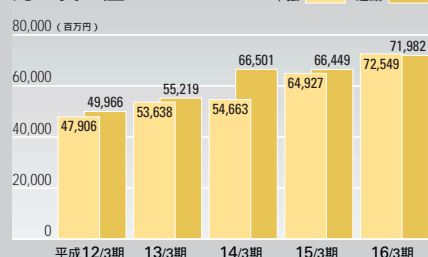
### 経常利益



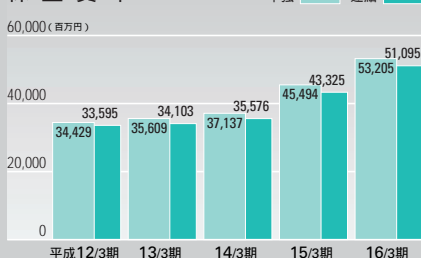
### 当期純利益



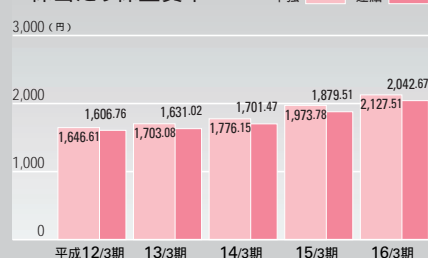
### 総資産



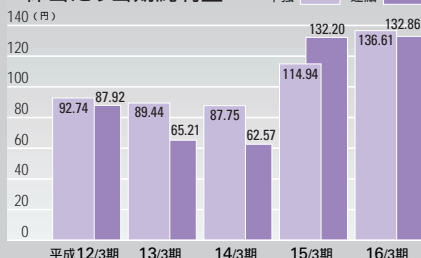
### 株主資本



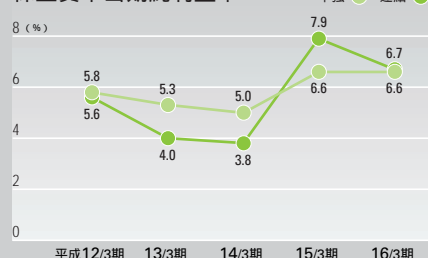
### 1株当たり株主資本



### 1株当たり当期純利益



### 株主資本当期純利益率



## Contents

### 目次

- 業績の推移…………… 1
- ごあいさつ…………… 2
- 事業のご報告…………… 3
- フォーカス オン シスメックス  
株式会社シーエヌエーを子会社化…………… 7
- トピックス…………… 9
- フォーカス オン シスメックス  
タンバクチップの技術開発に成功…………… 11
- 関係会社一覧…………… 12
- 財務諸表の概要(連結)…………… 13
- 財務諸表の概要(単独)…………… 15
- 株式の状況…………… 17
- 株主メモ/会社概要…………… 18
- 米国最前線レポート

# Message

## ごあいさつ

### 積極的なグローバル展開により、 過去最高の業績を達成しました。

株主の皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

現在、わが国の医療機関を取り巻く環境は、少子高齢化に対応するため、健康保険自己負担率引き上げなど抜本的な医療制度改革が進められ、一段と厳しさを増しております。一方、先進国では、遺伝子診断などの技術革新、疾患予防・健康管理に向けた市場拡大などにより、新たなビジネスチャンスが芽生えております。また、中国・アジアにおいては、経済成長やSARS対策などにより、医療環境の整備が進み、市場が拡大しております。

当期において当社グループは、2003年7月に検体検査分野で世界最大の市場である米国での事業拡大を目的に、直接販売・サービス体制への移行を実施いたしました。また、海外のIT関連会社を完全子会社化するなど、IT事業体制の強化に取り組みました。

この結果、当期連結売上高は65,970百万円(前年比15.2%増)を達成し、利益面では、営業利益は6,615百万円(前期比24.9%増)、経常利益は5,622百万円(前期比5.7%増)、当期純利益は3,157百万円(前期比1.0%増)と、売上・利益とも過去最高を更新いたしました。なお、当期の期末配当金は、1株当たり18円、中間配当金12円と合わせて、5円増配の年間30円となります。

当社グループは、「A Unique & Global Niche Company」を長期ビジョンに掲げ、特長のあるグローバル企業を目指し、先進のテクノロジーと独自の強みを活かしたソリューションをお客様に提供することで、検体検査分野におけるリーディングカンパニーの確固たる地位を確立し、皆様のご期待にお応えできるよう、さらなる業績の向上に努める所存です。

また、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題のひとつとして位置づけており、経営の健全性、透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させることで、グループ全体の企業価値の最大化を目指してまいります。

今後もより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長

家次 恒

# Operation Review

## 事業のご報告 — 所在地別セグメントの業績 —

### 日本

#### 前年比で大幅な増益を達成

当期は製品の販売価格下落など厳しい環境下にありましたが、検体検査機器・試薬・IT・サービス&サポートを合わせたトータルソリューションの提案活動を積極的に推進し、血液分析装置・血液凝固測定装置・試薬の売上が増加しました。また、POC(ポイント・オブ・ケア)分野では、インフルエンザ検査用試薬「ポクテムインフルエンザ A/B」の販売により、売上が順調に伸びました。

これらの結果、売上高は33,030百万円(前期比5.3%増)を達成することができました。一方、利益面においては、増収効果に加え、生産高の増加による売上原価率の改善、販売費および一般管理費の抑制により、営業利益は5,396百万円(前期比47.7%増)と大幅な増益となりました。



ポクテムインフルエンザ A/B

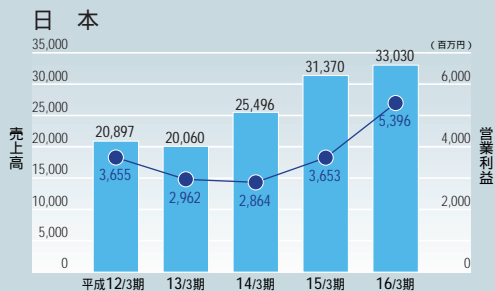
### 米州 (北米・中南米)

#### 大幅な売上拡大を実現

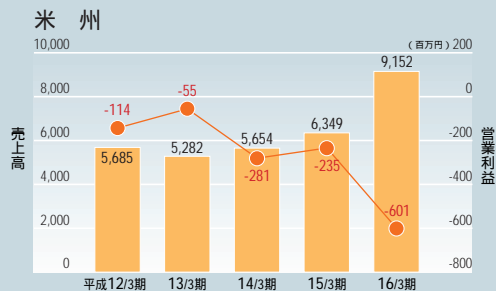
当期、米国市場においては、ソリューションビジネスのさらなる促進を図るため、現地のIT子会社と販売会社の統合を行い、事業体制の再構築に取り組みました。また、血球計数分野におけるロシュ社からの直接販売・サービス体制への移行も、一人のお客様を失うことなく、スムーズに事業移管を完了することができました。これにより、血液分析装置および試薬の売上が増加しました。また、尿検査分野の売上も伸びました。

これらの結果、円高の影響も補い、売上高は9,152百万円(前期比44.2%増)と大幅な増収となりました。利益面においては、直接販売・サービス体制への移行に伴う人員増加などの先行投資による販売費および一般管理費の増加、またIT事業のコスト増などにより、米州全体では営業損失601百万円(前期営業損失235百万円)となりました。

当期より所在地別セグメントにて、業績を表示しております。



韓国と台湾の売上は日本に含まれます。



## 欧州

### 売上・利益ともに順調に伸長

前期に引き続き、ITを含めた総合提案型販売を推進しました。その結果、血液分析装置・血液凝固測定装置・尿検査装置および試薬の売上が好調に推移し、また、IT分野での売上も増加しました。

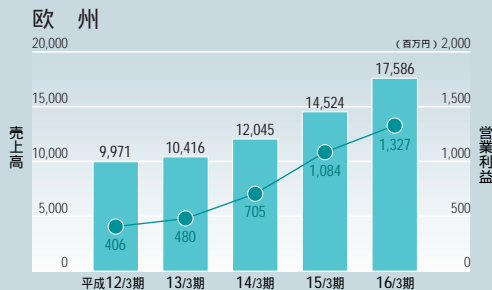
これらの結果、売上高は17,586百万円(前期比21.1%増)となりました。利益面では、大幅な増収効果と試薬の現地生産品目拡大などによる売上原価率の改善が販売費および一般管理費の増加を補い、営業利益は1,327百万円(前期比22.4%増)となりました。

## アジア・パシフィック

### 機器・試薬の売上が拡大

血液分析装置および血液凝固測定装置の売上が好調に推移するとともに、試薬の売上も増加しました。

これらの結果、売上高は2,334百万円(前期比24.1%増)となりました。利益面では、IT分野における人員の増加などによる経費増が影響し、営業利益は146百万円(前期比9.7%減)となりました。

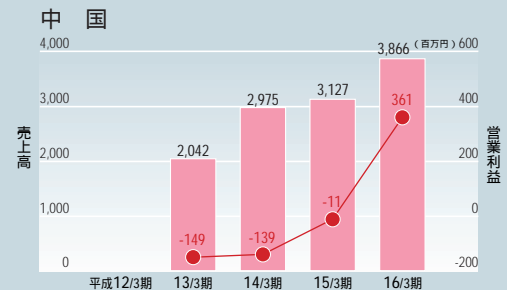
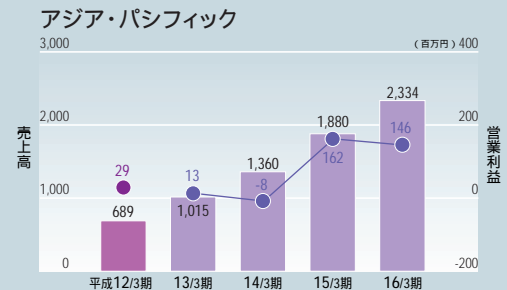


## 中国

### 需要の拡大とともに売上が増加

SARS感染対策および医療体制整備の農村部への拡大により、血液分析装置の需要が急増しました。また、ITを活用した中国市場向けのソリューションビジネスを積極的に展開し、検査情報システムの納入実績が増加しました。また、免疫・凝固試薬などの対外診断薬品の現地での生産に備え、無錫市に試薬第二工場を設立しました。

これらの結果、売上高は3,866百万円(前期比23.7%増)となりました。利益面においては、増収効果に加え、現地生産試薬の増加などにより売上原価率が大幅に改善されるとともに、販売費および一般管理費の抑制に努めた結果、営業利益は361百万円(前期営業損失11百万円)となりました。



平成12/3期の中国の売上についてはアジア・パシフィックに含まれます。

# Operation Review

## 事業のご報告

### 研究の状況

#### 癌の診断に関する研究を推進

中央研究所を拠点に、ライフサイエンス分野を中心とした研究を行う当社は、現在、特に癌の診断について注目した研究に取り組んでいます。昨年5月には、癌分野で全米No 1のテキサス大学MDアンダーソンがんセンターと抗癌剤の効果予測の診断法に関する臨床試験を行うため、共同研究開発契約を締結しました。また、今年1月には、癌のリンパ節転移を約30分で検出する遺伝子増幅検出装置「GD-100」を研究用として発売しました。この他、患者さんの負担を軽減するQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上に向けた微侵襲血糖自己測定技術の開発を株式会社東芝と共同で行っ

「E-CELL」= 1996年より、慶應義塾大学・富田勝研究室が中心となり、開発された世界的に有名な生体シミュレーション用のプログラム。

ています。また、糖尿病の新しい診断技術として、「E-CELL」を利用した「糖尿病疾患マネジメントシステム」の研究を大阪府立成人病センター・慶應義塾大学環境情報学部先端生命科学研究所と共同で進めています。

当期の連結での研究開発費の総額は5,549百万円(売上構成比8.4%)となりました。



微侵襲血糖自己測定装置の試作機

### コスト低減への取り組み

#### グローバルでのコスト競争力の強化を図る

現在、当社グループでは、原価および間接コストの低減を図り、グローバルな市場でのコスト競争力を強化するため、事業体制の再構築に取り組んでいます。原価低減と在庫削減を目指し、試薬製品においては海外生産品目を拡大し、2003年5月に小野・西神試薬生産工場の設備増強やライン改造に着手しました。また、材料調達から販売までの業務改革として、製品開発段階を含むグローバルでのサプライチェーンマネジメントによる原価低減を実施しています。間接業務

については、シェアードサービスを導入し、生産性と専門性の向上を目指すとともに、グローバルな情報システムの連携により、業務の効率化を推進しています。



小野工場



西神工場

## 次期の見通し

グローバルでの事業拡大を積極的に推進し、さらなる増収・増益を目指す

次期は、連結売上高73,000百万円(前期比10.7%増)、利益面においては、経常利益7,300百万円(前期比29.8%増)、当期純利益4,000百万円(前期比26.7%増)を予想しています。

## 今後の課題

### 1. ソリューションビジネスへの取り組み

検体検査やPOC(ポイント・オブ・ケア)にITを融合したソリューションビジネスをさらに推進するため、今年4月、医療情報システムの専門企業である株式会社シーエヌエーを子会社化しました。これにより、IT商品の品揃えが充実し、当社の強力な販売・サポート力で高付加価値なソリューションをお客様に提供します。また、強化された開発力によりニーズに応えた商品を迅速に供給できる体制の確立に取り組みます。一方、海外ではIT関連グループ会社の完全子会社化によるIT事業体制の整備が完了し、グローバルでのIT事業戦略を構築し、ソリューションビジネスの積極的な事業展開を行います。

### 2. 重点地域への取り組み

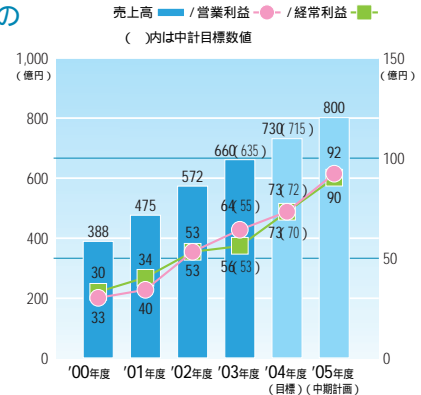
米国においては、当期より直接販売・サービス体制に移行しました。今後は、競争の激しい米国での当社グループの優位性の確立を目指し、学术サービスや広告宣伝活動を充実し、シスメックスブランドの浸透を図ります。また、当社の強みを活かした血球計数分野のシェア拡大、パイエル社(米国)とのアライアンスを活用した尿分野の事業展開を加速します。

## グループ中期経営計画の進捗と今後

### 2004年度目標(連結)

売上高 730億円  
営業利益 73億円  
経常利益 73億円

(為替レート:1ドル=105円  
1ユーロ=130円)



中国においては、総合サプライヤーを目指し、生化学分野における機器・試薬の販売強化を行います。また、ソリューションビジネスを展開し、事業拡大を目指します。さらに、昨年設立した中国試薬第二工場(無錫)の稼働により、コスト競争力の強化と新規分野の参入を推進します。

日本においては、新たな医療ニーズに対応し、POC市場に向けた品揃えの強化、ITを活用した総合提案、医療機関のISO認証取得のためのコンサルティングなど、きめの細かいサービス&サポートを推進し、お客様に対して、高付加価値なソリューションを提供します。

### 3. ライフサイエンス分野の事業推進

現在、当社グループでは新しい事業分野の開拓を目指し、ライフサイエンス分野の研究開発に取り組んでいます。今年1月に研究用として発売した癌のリンパ節転移を迅速に診断する遺伝子増幅検出装置「GD-100」の治験を進め、今後は、装置・試薬の本格的な市場導入に向けて社内体制を整備していきます。その他の研究テーマについては、有用性の確立を目指し、日本・米国・欧州での臨床評価を推進し、事業化に向けた取り組みを強化します。

# 医療情報システムの さらなる強化を図るため 「株式会社シーエヌエー」を子会社化



医療情報システム分野に関する事業体制の強化を目的として、同分野の専門企業である株式会社シーエヌエーに、50.82%の資本参加を実施し、子会社化しました。

これにより同社は4月21日より新たにシスメックスグループの一員に加わりました。

今後はシスメックスグループとして戦略や目標を共有し、検体検査分野でのリーディングカンパニーを目指します。



## トータルソリューションプロバイダーとしてのリーディングカンパニーを目指す

現在、日本では医療制度改革が進められる中、医療の自由化と効率化による医療費抑制に向けた施策が打ち出されています。このような環境のもと、情報システムによる医療業務支援が必要となり、電子カルテや臨床検査情報システムの需要が高まっています。また、地域の中核となる病院と窓口となる医院とが連携した、効率的な地域医療情報ネットワークが求められています。このようなニーズを受け、当社では臨床検査機器および試薬とサービス&

サポート、検査情報システムとを組み合わせ、個々のお客様に最適な臨床検査環境を構築するソリューションビジネスを展開しています。株式会社シーエヌエーは、医療における情報システムの専門企業として幅広い分野に対応したシステムを提供しており、国内の臨床検査システム分野ではトップクラスの納入実績(約250件)を持っています。

今回の販売・開発における業務提携および資本参加により、シスメックスグループとして戦略や目標を共有し、医療情報システム分野のさらなる強化を図り、トータルソリューションプロバイダーとして、より強固な地位の確立を目指します。

### 株式会社シーエヌエーの概要

所在地 福岡市博多区博多駅前2丁目3番7号  
 設立年月日 1996年2月6日  
 従業員数 79名(2003年12月31日現在)  
 上場取引所 東京証券取引所マザーズ(2003年3月20日上場)  
 業績 売上高 12億円(2003年12月期)  
 U R L <http://www.cna-net.co.jp>



### 業務提携 について

2004年3月、株式会社シーエヌエーと業務提携に関する基本契約を締結しました。今後の具体的な内容については、両社で構成するプロジェクトを中心に協議していきます。

## 1 国内販売について

シスメックスの強力な販売ネットワークを活用し、国内においてシーエヌエー商品を発売

生理・病理分野の情報システム商品など、国内向け検査情報システムの品揃えが充実し、お客様のニーズを幅広くカバーすることが可能になります。

## 2 共同開発について

両社が協力し、新しい医療情報システム製品を開発

シスメックスグループにシーエヌエーの経験豊かな技術者が加わり、開発力がより一層強化されます。

## 3 その他業務について

両社で重複する間接業務の統合など幅広い範囲で提携

商品供給や共同開発にとどまらず、グループとして包括的に提携の可能性を探り、効率を高めます。

# Topics

## 第37期事業活動の動向

- 2003年
- 4月
- ▶血液採取が不要な微侵襲血糖自己測定技術を株式会社東芝と共同開発
  - ▶バイエル社と米国における尿製品に関する販売代理店契約を締結
- 5月
- ▶世界初、全血測定可能なHTLV-抗体検査用試薬を発売
  - ▶グローバル展開に向けた小野工場・西神工場の機能強化を開始 **P5**
  - ▶テーラーメイド医療に向けた抗癌剤の診断法に関する臨床試験を開始
  - ▶ロシュ社(米国)との分子診断、微侵襲・無侵襲技術に関する共同研究開発契約を締結
  - ▶病院・検査センターを対象にISO認証取得のためのコンサルティング業務を開始
- 6月
- ▶パイオ・ラッド社(米国)と糖尿病検査製品に関する販売契約を締結
  - ▶ミレニアムプロジェクトにおいて血球細胞の形態変化解析技術を開発
  - ▶ウルトラサウンド社(米国)との超音波膀胱画像診断装置に関する日本での販売契約を締結
- 7月
- ▶日本パイオ・ラッド社とエイズ検査試薬の日本およびアジアでの委託製造・販売契約を締結
- 8月
- ▶無錫市に中国試薬第二工場を設立



ブラダースキャン

## ITビジネスの強化を図るため海外ITグループ会社を完全子会社化

グローバルなIT事業体制を強化するため、ベルギーとニュージーランドのグループ現地法人の株式を100%取得し、完全子会社化を行いました。これにより、両社が保有する知的財産権などを当社に集約することで開発の効率化を進める一方、グローバルでのIT事業戦略策定と推進機能の強化を図ります。今後は、当社の強みである臨床検査機器・試薬のノウハウをベースに検査情報システムの新規開発を進め、病院の検査室におけるトータルソリューションのさらなるレベルアップを目指します。

## 世界最速、癌のリンパ節転移を約30分(従来法の約6分の1)で検出する検査装置を発売

当社は2002年5月に技術開発に成功した癌のリンパ節転移を迅速に検出する遺伝子増幅検出装置「GD-100」を研究用として発売しました。独自に開発した可溶化試薬を使用した直接遺伝子増幅法「OSNA」(特許申請中)により、従来、約3時間必要であった検出時間を約30分と大幅に短縮し、世界最速を実現しました。

今後は、治験、許認可手続きを経て、2006年度に臨床用装置・試薬の発売を予定しています。



GD-100

2003.4. >>> 2004.4.

## 当社の幼若細胞測定用試薬に関する技術が平成16年度「全国発明表彰特別賞」を受賞

当社が開発した幼若細胞測定用試薬に関する技術が、社団法人発明協会主催の平成16年度「全国発明表彰特別賞」を受賞しました。幼若細胞とは、正常であれば血液中に存在しない未成熟な血液細胞のことで、特に幼若白血球の測定は、白血病等の血液疾患および癌の骨髄転移、重症の感染症などにおいて特に重要です。受賞した技術は、これらの異常細胞を早期に発見することができ、血球計数装置での幼若細胞測定を可能にした世界初の専用試薬として、当社のXE-2100などで利用されており、全世界で高い評価をいただいています。

## 前立腺癌の腫瘍マーカー測定が可能な試薬を発売

前立腺癌の腫瘍マーカー<sup>(注)</sup>を測定するための試薬「ランリームPSA」を日本国内にて発売しました。本製品は、当社の免疫測定装置「PAMIA」シリーズの専用試薬であり、組み合わせて使用することで、約15分での迅速測定が可能になります。今後は東アジアでの発売も予定しています。



PAMIA-40i

(注)腫瘍マーカー = 癌の目印となる物質の総称。

- 10月
  - ▶日本最大規模の臨床検査外部精度管理システム「eQAPI」を導入
  - ▶末梢血管モニタリング装置「アストリムSU」がグッドデザイン賞を受賞
  - ▶小型血液ガス・電解質分析装置の国内販売において独占販売店契約をOSMETECH社(米国)と締結
- 11月▶国内最小の動物用多項目自動血球計数装置「pocH-100iV」を発売
- 12月▶海外ITグループ会社を完全子会社化
- 2004年
  - 1月▶世界最速、癌のリンパ節転移を約30分で検出する装置を発売
  - ▶E-CELLをベースとした、糖尿病の診断・治療方針決定のための支援システムを共同開発
  - ▶世界初、20項目のタンパク質同時測定可能なタンパクチップを開発 P11
  - ▶前立腺癌の腫瘍マーカー測定が可能な試薬を発売
- 3月▶株式会社シーエヌエーへの資本参加と業務提携 P7
- 4月▶自動血球分析装置の校正に関する新サービスを開始
- ▶幼若細胞測定用試薬に関する技術が平成16年度全国発明表彰特別賞を受賞

pocH-100iV



抗癌剤の効果予測診断技術

## 世界初、20項目のタンパク質を 同時測定可能なタンパクチップを新開発

癌細胞の増殖に関連深いタンパク質の活性や量の測定を、  
シスメックス独自のタンパク質量法により迅速な測定が可能に。

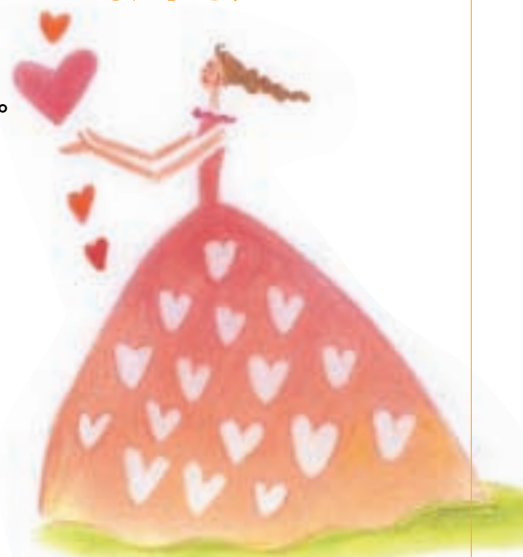


タンパクチップ

### シスメックス独自のタンパク質量法の 開発に成功

患者さんのクオリティ・オブ・ライフの向上を目指し、ライフサイエンスへの取組みを進める中央研究所では、特に癌の確定診断に注目した研究を行っています。

この度、同研究所において、抗癌剤の効果予測診断を実現するための新たなタンパクチップの開発に成功しました。この診断には、癌細胞の増殖に関連した約20種類のタンパク質の活性および量を同時に測定する必要があります。しかし、従来のタンパク質量法では、多大な開発時間とコストが必要であり、課題となっていました。当社では、抗原1つに



対して抗体を1種類のみ使用するという、新たなタンパク質量法(特許出願中)を開発し、これにより、20項目のタンパク質同時測定を実現するとともに、迅速性とコストパフォーマンスに優れた世界初のタンパクチップの開発に成功しました。

現在、このタンパクチップは消化器癌および乳癌に対する抗癌剤の効果予測診断を対象としていますが、タンパク質は体内の生理機能をつかさどるため、医薬品の作用・副作用の把握など、将来的にはより迅速で簡単なタンパクチップの需要拡大が期待されます。今後は、今回開発に成功したタンパクチップについて、抗癌剤の効果予測診断以外への適用の可能性も追求していきます。

# Sysmex Global Network

## 連結子会社および関連会社



国内グループ会社  
 国際試薬株式会社  
 メディカ株式会社  
 トーアメディカル株式会社  
 シスメックス物流株式会社  
 株式会社アール・イー・システムズ

- 販売 ..... ●
- 製造 ..... ■
- 開発 ..... ▲
- 物流 ..... ⊙
- 持株会社 ..... ★
- 統括拠点 ..... □

### 新規設立会社 / 主な事業内容

**SYSMEX AMERICA, INC. [2003年7月設立] / 検体検査機器及び検体検査試薬の販売、臨床検査情報システムの開発及び販売**

米国販売子会社「SYSMEX CORPORATION OF AMERICA」とIT開発・販売子会社「SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA, INC.」を統合。

**希森美康生物科技(無錫)有限公司 [2003年8月設立] / 検体検査試薬の開発、製造及び販売**

**SYSMEX LOGISTICS UK LTD. [2003年12月設立] / 検体検査機器、検体検査試薬の保管、荷造梱包及び発送**

(平成16年3月31日現在)

### 貸借対照表

(単位:百万円)

	当 期	前 期
	平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	48,239	42,865
固定資産	23,742	23,584
● 資産合計	71,982	66,449
<b>負債の部</b>		
流動負債	18,907	18,803
固定負債	1,965	4,267
● 負債合計	20,873	23,071
<b>少数株主持分</b>		
少数株主持分	13	53
<b>資本の部</b>		
資本金	7,943	5,509
資本剰余金	11,170	8,736
利益剰余金	31,243	28,784
その他有価証券評価差額金	456	91
為替換算調整勘定	357	268
自己株式	75	64
● 資本合計	51,095	43,325
負債・少数株主持分・資本合計	71,982	66,449

#### 資産及び負債・資本

総資産は前期末と比べて55億32百万円増の719億82百万円となりました。主な要因は、売上高の増加に伴い売上債権や棚卸資産が増加したこと、現金の増加によるものです。負債は借入金の返済を進めたことと、第1回無担保転換社債が期日を迎えたこと等により前期比21億97百万円減の208億73百万円となりました。一方、株主資本は第1回無担保転換社債50億円のうち約97%が転換されたため前期比77億70百万円増の510億95百万円となり、株主資本比率も65.2%から71.0%へ大幅に上昇しました。

### 損益計算書

(単位:百万円)

	当 期	前 期
	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から平成15年3月31日まで
● 売上高	65,970	57,252
売上原価	27,940	23,867
売上総利益	38,029	33,385
販売費及び一般管理費	31,414	28,087
営業利益	6,615	5,298
営業外収益	364	565
営業外費用	1,356	542
経常利益	5,622	5,321
特別利益	31	49
特別損失	396	1,023
税金等調整前当期純利益	5,257	4,348
法人税・住民税及び事業税	2,557	892
法人税等調整額	413	345
少数株主損益	44	15
● 当期純利益	3,157	3,124

#### 売上高

売上高は前期に比べ、87億17百万円(15.2%)増の659億70百万円となりました。

国内は317億84百万円と13億32百万円(前期比4.4%増)の増加、海外は各地域とも好調で341億85百万円と73億85百万円(前期比27.6%増)の大幅増加となり、海外売上高比率は51.8%(前期は46.8%)となりました。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
● 営業活動によるキャッシュ・フロー	9,300	5,604
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,212	2,259
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,427	2,034
現金及び現金同等物に係る換算差額	195	238
現金及び現金同等物の増減額	3,465	1,071
現金及び現金同等物の期首残高	10,253	9,181
現金及び現金同等物の期末残高	13,718	10,253

### キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前期と比べて約37億円増加し93億円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益の増加及び法人税等の還付に加え、法人税等の支払いが大幅に減少したことによるものです。

### 経常利益

期末の急激な円高進行により為替差損が発生しましたが、増収効果に加え、販売費及び一般管理費の抑制に努め、連結経常利益は56億22百万円(前期比3億円増)となりました。

### 当期純利益

前期は株式市況の下落による有価証券評価損及び国際試薬株式会社の有償減資に伴い税務上の株式譲渡損失とみなし配当が発生したことにより法人税等の負担額が減少しましたが、当期はその特殊要因がなかったために、当期純利益は31億57百万円(前期比32百万円増)となりました。

## 剰余金計算書

(単位:百万円)

	当期		前期	
	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで		平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで	
<b>資本剰余金の部</b>				
資本剰余金期首残高		8,736		5,560
資本剰余金増加高				
株式交換による組入額		-		3,175
転換社債の転換による組入額	2,433	2,433	0	3,175
資本剰余金期末残高		11,170		8,736
<b>利益剰余金の部</b>				
利益剰余金期首残高		28,784		26,233
利益剰余金増加高				
当期純利益	3,157	3,157	3,124	3,124
利益剰余金減少高				
配当金		598		483
役員賞与		99		78
(うち監査役賞与)		(17)		(10)
自己株式処分差損		-		8
持分法適用会社の減少による剰余金減少高		- 698		3 574
利益剰余金期末残高		31,243		28,784

### 貸借対照表

(単位:百万円)

	当 期	前 期
	平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	42,033	34,611
固定資産	30,516	30,315
資産合計	72,549	64,927
<b>負債の部</b>		
流動負債	18,293	16,598
固定負債	1,050	2,835
負債合計	19,344	19,433
<b>資本の部</b>		
資本金	7,943	5,509
資本剰余金	12,101	9,667
利益剰余金	32,822	30,266
株式等評価差額金	413	115
自己株式	75	64
資本合計	53,205	45,494
負債及び資本合計	72,549	64,927

### 損益計算書

(単位:百万円)

	当 期	前 期
	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
売上高	47,412	43,419
売上原価	21,894	20,409
売上総利益	25,518	23,010
販売費及び一般管理費	21,305	19,505
営業利益	4,212	3,504
営業外収益	1,649	1,016
営業外費用	1,280	286
経常利益	4,581	4,234
特別利益	15	27
特別損失	167	1,056
税引前当期純利益	4,429	3,204
法人税・住民税及び事業税	1,384	345
法人税等調整額	190	131
当期純利益	3,235	2,727
前期繰越利益	957	886
中間配当額	276	253
当期末処分利益	3,917	3,361

### 利益処分

(単位:百万円)

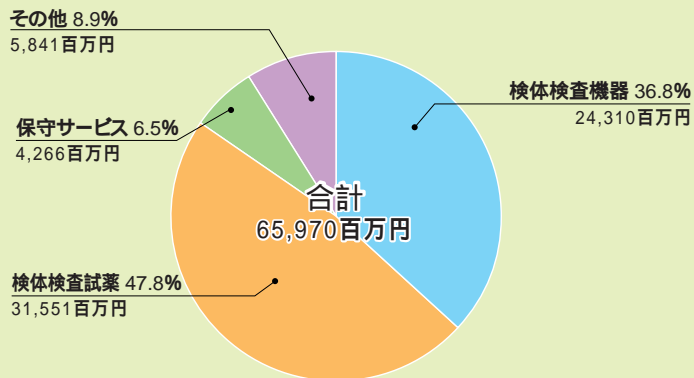
	当 期	前 期
	平成16年6月25日 株主総会決議	平成15年6月26日 株主総会決議
当期末処分利益	3,917	3,361
利益処分額	2,358	2,403
配当金	449	322
	1株につき 普通配当18円	1株につき 普通配当11円 記念配当3円
役員賞与	89	81
(うち監査役賞与)	(10)	(10)
別途積立金	2,000	2,000
次期繰越利益	1,378	957

(注)1. 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

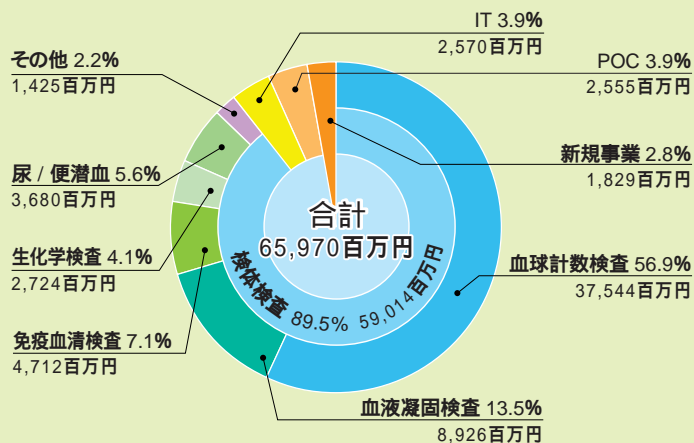
2. 当期は1株につき12円の中間配当を実施いたしました。



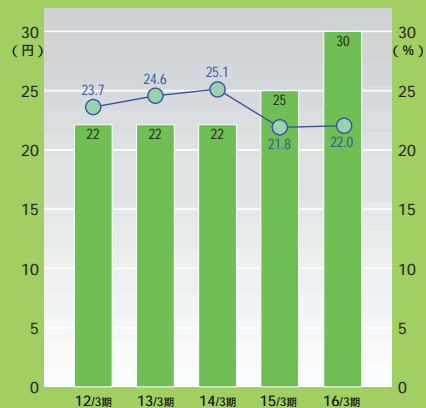
## 品目別販売実績(連結)



## 事業別売上高(連結)



## 配当性向/1株当たり配当額



## 配当政策

### 【基本方針】

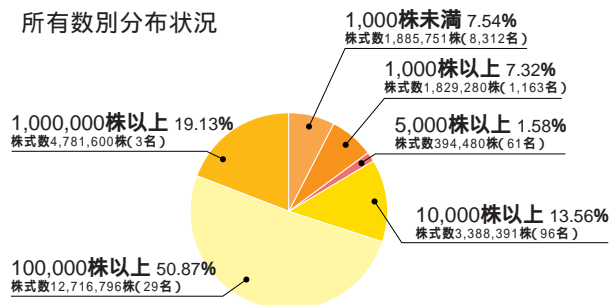
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策の一つとして位置づけており、継続的な配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としています。

## 株式の状況

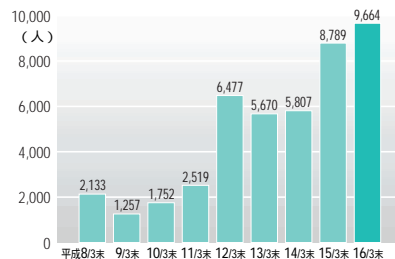
会社が発行する株式の総数 74,836,000株

発行済株式総数 24,996,298株

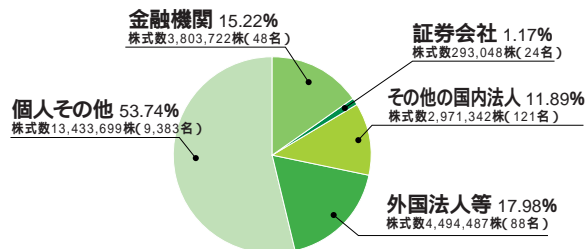
### 所有数別分布状況



### 株主数の推移



### 所有者別分布状況



### 株価・出来高の推移



平成8/7までは大証株価、翌月以降は東証株価を使用。

## 株主メモ

決算期日	3月31日
定時株主総会 基準日	6月
定時株主総会	3月31日
利益配当金	3月31日
中間配当金	9月30日
その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。	
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部 大阪証券取引所市場第1部
証券コード	6869
1単元の株式の数	100株

株式事務 名義書換代理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先・ 電話照会先)	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-707-696(フリーダイヤル)
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店

- お知らせ**
- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
  - 配当金を郵便貯金口座または銀行口座へお振込みすることができますので、名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。
  - 単元未満株式の買増制度を導入いたしておりますので、詳しくは名義書換代理人にお問い合わせください。

## 会社概要

商号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION (平成10年10月1日東亜医用電子株式会社から商号変更)
設立年月日	昭和43年2月20日
資本金	79億4318万円
従業員数	1,115名 左記の従業員数には関係会社への出向者208名および嘱託、パートタイマー238名は含んでおりません。
主な事業の内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入
主な事業所	
本社	〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 TEL.078-265-0500(代) FAX.078-265-0524
テクノセンター	加古川工場 小野工場
仙台支店	北関東支店 東京支店 名古屋支店
大阪支店	広島支店 福岡支店
営業所	札幌、盛岡、長野、新潟、千葉、横浜、静岡、金沢、 京都、神戸、高松、岡山、鹿児島

### 主な関係会社

国際試薬株式会社  
メデイカ株式会社  
トーマメディカル株式会社  
シスメックス物流株式会社  
株式会社アール・エー・システムズ  
SYSMEX AMERICA, INC.(アメリカ)  
SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.(アメリカ)  
SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.(ブラジル)  
SYSMEX EUROPE GMBH(ドイツ)  
SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH(ドイツ)  
WELLTEC GMBH(ドイツ)  
SYSMEX UK LIMITED(イギリス)  
SYSMEX LOGISTICS UK LTD.(イギリス)  
SYSMEX HOLDING BELGIUM S.A.(ベルギー)  
SYSMEX BELGIUM S.A.(ベルギー)  
SYSMEX FRANCE S.A.R.L.(フランス)  
SYSMEX BELGIUM IT SLOVAKIA, S.R.O.(スロバキア)  
濟南希森美康医用電子有限公司(中国)  
希森美康香港有限公司(中国)  
希森美康医用電子(上海)有限公司(中国)  
希森美康電脳技術(上海)有限公司(中国)  
希森美康生物科技(無錫)有限公司(中国)  
SYSMEX SAN TUNG CO.,LTD.(台湾)  
SYSMEX SINGAPORE PTE LTD.(シンガポール)  
SYSMEX (MALAYSIA)SDN BHD(マレーシア)  
SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.(インド)  
SYSMEX (THAILAND)CO.,LTD.(タイ)  
MED-ONE CO.,LTD.(タイ)  
SYSMEX NEW ZEALAND LIMITED(ニュージーランド)  
WHOOSH TECHNOLOGY PTY LIMITED(オーストラリア)  
PT. SYSMEX INDONESIA(インドネシア)

## 役員のご紹介

取締役社長  
(代表取締役) 家次 恒  
専務取締役 雪本 賢一  
常務取締役 和歌 光雄  
常務取締役 岩崎 為雄

取締役 日置 栄一  
取締役 中谷 正  
取締役 林 正好  
取締役 大東 重則

取締役 山本 博  
取締役 中島 幸男  
取締役 田村 幸嗣

常勤監査役 明田 光弘  
常勤監査役 岩田 豊太郎  
監査役 石田 義晴

データは全て平成16年3月31日現在のものです。ただし株価、出来高の推移は平成16年5月31日現在のデータです。

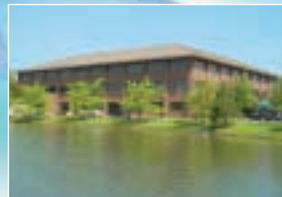


米国最前線レポート

# シスメックス グローバル戦略

## 米国でのサービス体制の再構築 お客様に直接サービスを提供し、顧客満足度を向上

### Field-TACプログラムによる迅速な対応



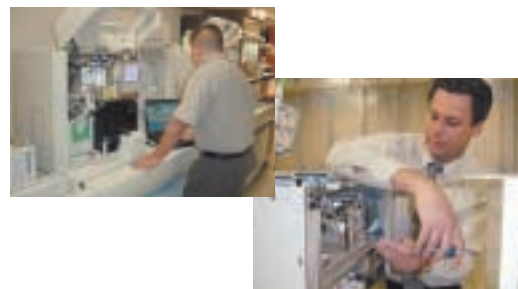
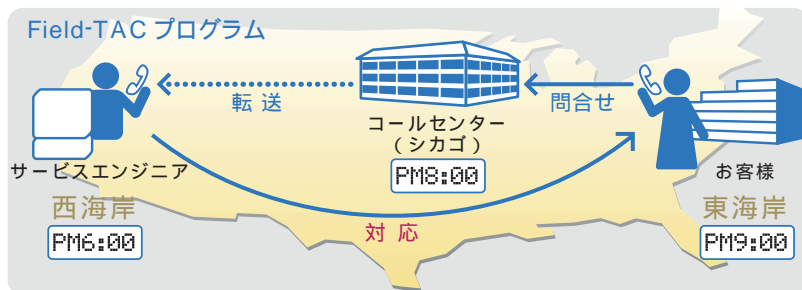
SYSMEX AMERICA, INC. (シカゴ)

米国では、事業体制の再構築を行い、直接販売・サービス体制に移行しました。以前は、代理店でお客様からの問い合わせ対応や機器メンテナンス等のサービスを行っていましたが、現在は当社のサービスエンジニアが直接お客様へサービスを提供しています。サービス体制の整備では、特にコールセンターの強化を行い、お客様からの問い合わせをコールセンターに集中させ、専門的な知識を持ったスタッフが対応しています。また、各地のサービスエ

ンジニアと連携をとり、迅速にお客様のご要望に対応できる体制を整えました。その他、西海岸から東海岸までの時差を利用したField-TACプログラムを導入し、全米を網羅したサービスネットワークを構築しています。

機器・試薬の製造元である当社が直接サービスを提供することにより、お客様の安心・満足度が向上し、お客様より高い評価をいただいております。

Field-TAC (TAC = Technical Assistant Center)



## シスメックス株式会社

URL=<http://www.sysmex.co.jp>

再生紙、大豆油インキを使用しています。

## お知らせ

決算説明会の様子を当社ホームページにて、動画でご覧いただけます。

URL=<http://www.sysmex.co.jp/ir/>

